

川高同窓会報

埼玉県立川越高等学校同窓会

〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049)225-9071 (直通)

<http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

【学 校】電話 (049)222-0224 (学校)

<http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

2015年12月10日、ストックホルムのコンサートホールにて

祝ノーベル物理学賞受賞

梶田隆章氏(高29回生)



目次

会長・校長挨拶	2
ノーベル賞受賞の梶田氏	3
同窓会総会・記念講演 根岸秋男氏	4
秋季散策会	5
28年度案内・川越初雁会	5
27年度報告・飯能初雁会	5
「川高初雁の森レポート」	6
くすの木俳句大会	7
特集「旧制川越中学校を語る」 教練・勤労動員・勉学	8
定時制ものがたり	12
全国生活体験発表会	12
各地区初雁会の活動	14
坂戸・小川・川越・在京	14
狭山・川島桶川の各初雁会	14
同期会だより	16
傘寿の会・高25回生	16
高29回生・高63回生	17
投稿	17
母校だより(一)	19
文化講演会 山田あつし氏	19
(指揮者)	19
母校だより(二)	20
現役生の活躍	20
母校だより(三)	21
SSH報告	21
母校だより(四)	22
大学進学状況	22
人事異動	22
事務局より	23
叙勲受章者・寄贈図書等	23
同窓会総会のご案内・編集後記	23

梶田隆章氏(高29) ノーベル物理学賞受賞を祝す



同窓会長
田中 正

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

梶田氏は物質を構成する最小単位である素粒子「ニュートリノ」に質量があることを発見しノーベル物理学賞に輝いた。同窓会では学校と協議し、この栄誉を讃え管理棟入口に顕彰碑を建立することを検討している。梶田氏のノーベル賞受賞は川越高校明治三十二年創立以来、最大の快挙である。梶田氏は高校時代、弓道部に所属し正に文武両道であり、この面からも生徒に夢と希望を与えてくれた。

なお梶田氏には五月二十二日の同窓会総会で記念講演を頂くことになっている。

昨年五月二十四日に同窓会総会を開催した。記念講演は根岸秋男氏(高29) 明治安田生命保険相互会社社長に「わたしと生命保険」動けば明日がみえてくる」という演題で示唆に富んだすばらしい講演を頂いた。二〇〇五年に保

険金不払い問題が発生、「個人営業改革」「事務サービス改革」等、お客様を大切にするというこの一点だけで行動し高い評価を得てお客様の信頼を回復することが出来た。二〇一五年三月期決算は過去最高益となり二年連続で増配をするほどになった。根岸社長の経営手腕は見事である。なお現在社会貢献事業としてJリーグのトップスポンサーになっている。

九月二十七日、第四回植樹祭を実施した。当日は同窓生六十一名、学生四十一名が参加してくれた。学生の中に十九名の応援部員がおり作業開始前にエールを送ってくれた。元気な学生の参加で大変な率があがり植樹もはかどった。植樹すべき一ヘクタール全てに手を入れた。鹿害等もあり今後も下草刈り、除伐等継続的な作業が必要となる。引き続き皆様のご協力をお願い致します。なお同窓生には毎回植樹料として多額のご協力をいただき感謝致しております。

十一月二十一日飯能初雁会主催で秋季散策会を実施した。当日は天候にも恵まれた。六十五名が参加し景観と自然環境のすばらしい散策を楽し

んだ。まず名栗湖畔川高初雁の森に行きウッドデッキから名栗湖の眺望を楽しんだ。次に秩父街道の宿場町として栄えた「吾野宿」に行き地元会員から古民家の説明を受けながら散策した。懇親会は「休暇村奥武蔵」で行った。梶田氏のノーベル賞受賞の話等大変盛り上がった。次回は川越初雁会主催で実施される。奮ってご参加下さい。

会員の皆様の同窓会活動に対するご支援ご協力に深く感謝致しております。今後とも宜しくお願い申し上げます。



校長
青木 勇藤

ノーベル物理学賞受賞

本校の歴史において、平成二十七年は特に記憶に残るべき快挙が達せられた年となりました。高校二十九回卒業の梶田隆章東京大学宇宙線研究所長が十二月にノーベル物理学賞を受賞し、本校関係者が挙って誇りに思い、祝福したところです。

梶田教授には、本校が文部科学省から指定されているSSH事業の運営指導委員とし

て定期的に教員及び生徒に対して直接指導やアドバイスを頂いてきました。本年二月、SSHの生徒研究発表会の折には、梶田教授から「ニュートリノ」に関する講演をしていただき、在校生も大いに励みとなり、学問、学業へのモチベーションを高揚させてくれたように思います。

講演の中で、梶田教授は、ニュートリノに質量があることを発見し、一九九八年の国際会議で発表し、認知されるまでの経緯について興味深いお話をされていました。その十二年前の一九八六年、梶田教授は、「カミオカンデ」での観測プログラムを改良し、そこで得られたニュートリノに関する観測値と予想していた計算値が合致しないことに着目し、この点が重要と考えその解明に没頭し、一年かけて検証した後、やはり「ニュートリノ振動」の可能性があるととして、一九八八年、二十九歳の時に論文を発表しました。しかし、当時は「ニュートリノには質量がない」とする標準理論が常識だったため、学会では「計算が間違っているのではないか」などと相手にされなかったといいます。その後、十年間かけて

検証を重ねます。その間「スーパーカミオカンデ」も完成し、確固たるデータを掴み、一九九八年にその発表が行われた国際会議においては、梶田教授は万雷の拍手で讃えられたそうです。

もう一つ、梶田教授のお人柄がよくうかがえる印象的なお話をされました。立場上、梶田教授とは何度かお会いし、いつも感じるのですが、実に謙虚な姿勢を貫いているということです。梶田教授は、ニュートリノに関する画期的な成果の原動力はカミオカンデであり、その最初のアイデアとカミオカンデに携わった良き師と良き仲間、チームワークのお蔭であると強調しています。また、生徒に対しては、「いつ本当に人生を決めるような大切な人や物に出会ってもいいように、広く目と心を開いて準備をしておくことが大切である」と結んでいます。このようなお話を聞くにつけ、梶田教授の科学者としての実績は勿論ですが、人を惹きつけるしなやかな人間力を併せ持つ素晴らしい人格者であると感じ入りました。川高生にも梶田教授の精神・生き様を是非とも受け継いでもらいたいと切に願うものです。

川越高校新聞が梶田氏を取材



先月、東京大学宇宙線研究所長・教授の梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞した。本校出身ということもあり、新聞部と放送部は共同で今月19日、東京大学柏キャンパスにて取材を行った。(第327号再掲)



ノーベル賞の授賞式が平成27年10月10日夕(日本時間11日未明)、ストックホルムで開かれ、物理学賞に輝いた梶田隆章氏にスウェーデンのカール16世グスタフ国王(右)からメダルと賞状が授与された。

ノーベル賞授賞式における
梶田隆章氏(高29)の晴姿



梶田隆章氏

メダルを手に笑顔の

(写真は、共同通信社・埼玉新聞社の提供)

受賞した感想

私はニュートリノ振動に関わる研究を、大学院で博士号を取ってから20年以上行っていたこと、非常にたくさんの人と一緒に研究を行っていたことで、このような結果が得られたのうれしく思っている。受賞したときには、Eメールが約1000通、また電報もたくさん届いたので、すべて目を通すのは大変だった。研究を続けてこられた秘訣は、とても重要なことであろうという意識に支えられ、科学者として、新たな知識を発見していくという責任感を感じながら研究に取り組んできたので、20年以上続けることができたと思う。また、研究に行詰まるということがあまりなく、非常に幸運であったと思う。

学生時代について

高校に入学した当初は、高校の勉強を少し甘く見ていたため、成績はあまり良くなかった。3年生になり、大学入試を意識し始めてからは、出される限り勉強していた。学生時代に勉強し、そこで蓄えた知識は今でも役に立っている。部活動は弓道部に所属していた。部活の仲間とは今でも

連絡を取り合っていて、長い間付き合うことの出来る友人を作ることができて良かったと思う。

川高のイメージ

川高生は、自由に活動していて非常に良いと思う。また、SSHは、とても有益な活動である。単なる受験勉強ではない、少し踏み込んだ研究の第一歩、研究の触りの部分に取り組んでいるので、そういう世界があるということを知る意味で、素晴らしい活動だと思う。SSHで経験したこととは、将来必ず何かに役に立つので、今後も続けていくべきである。

川高生に必要なこと

文系・理系を問わず、幅広い分野の勉強をしてほしい。川高は、1年生のときに文系・理系を決めるが、それは早いと思う。

その中でも、特に勉強したほうが良いと思うものは、英語と社会である。まず、英語は、実社会に出たら国語と同じ位必要な言語なので、絶対に勉強しないといけない。また、社会は、入試の有無に関わらず必要である。高校で習う社会は、その後の実社会で色々な人と会話する際の基礎となる。知らない恥をかく

ことがあるので、高校の内に身に付けておくことが必要だ。

大学の進路について

大学を受験する際にある程度は将来を見据えないといけない。私は、物理に興味があったので、漠然と物理科にいくことを決めていた。しかし、高校生で人生の大きな進路を決めるのは早いと思う。大学に入り、自分が志望した学問分野に向いていなかったり、大学に入って新たに興味があることが見つかったりすることもあ。また、大学では、高校とは勉強の質も変わってくるので、進路が決まらなければ大きなくりで大学を目指すこともひとつの選択だと思う。

川高生にメッセージ

川高は、自由の校風があると思うので、その校風のもと、のびのびと部活や勉強に取り組んでほしいと思う。



梶田氏と取材の右より、玉置幸寛君、江川公哉君、吉場智哉君

同窓会総会 講演概要

私と生命保険

明治安田生命社長

根岸秋男(高29)

早稲田大学理工学部を卒業後、1981年に入社し、2年前に社長に就任しました。当社は国内大手の一角を占め、個人保険は国内第3位、企業・官公庁向けの団体保険は第1位、営業職員約3万人超の従業員が働いています。



講演する根岸氏

わり保険会社の収支構造を理解できたことが今でも役立っています。

35歳の時に営業職員を束ねる営業所長職に志願。当社初のアクチュアリー出身営業所長として保険商品やセールストークの教育は誰にも負けない自負がありました。しかし、営業職員が一番苦労していたのは提案の手法ではなく、その提案を聞いていただける相手探しでした。私は効果的な活動方法やアポイントの取り方等を徹底的に考えました。その時のアイデアは現在の全社の活動にも活かされています。

一 川越高校の思い出
坂戸の住吉中学で剣道をしていたので剣道部に入学しましたが、小児喘息で高1の秋に断念。以後、郷土部へ入部しました。自主性を重んじる川高風土のなか勉強に没頭しました。受験勉強を通じ努力は決して裏切らないことを実感しました。

二 生命保険との出会い・挑戦
入社後は保険数理の専門資格であるアクチュアリー試験に挑戦、13年間保険数理に関

今でも行動の原点になっています。

三 経営改革への挑戦

①会社再生への挑戦

2005年に保険金不払事案に端を発した2度の行政処分を受け、会長・社長以下13名の役員が退陣、私は企画部長として業務改善計画を取りまとめました。社会とお客さまに大変なご迷惑とご心配おかけした当社は、確実なお支払いにおいてトップランナーであり続けなければならぬと肝に銘じてます。

②営業改革への挑戦

次に就任した営業企画部長では、従来の新契約業績偏重型から営業プロセス重視型への転換をめざした構造改革を行いました。ご契約者への定期訪問を義務付けて、FP教育に力を入れ、それを営業職員の処遇に反映しました。お客様を想う気持ちや使命感を原動力に、地道にコツコツと訪問したお客様の信頼を勝ち取ることです。こんな時代だからこそ、人を想う気持ちや寄り添う心が大切であると考えています。

③事務サービス改革への挑戦

東日本大震災では多くの当社職員が自らも被災している

なか、避難所を廻りお客様の安否を確認し請求手続きに当たってくれました。私はお客さまからのお申出を待つのではなく、当社側から能動的に行う対面サービスの素晴らしさに感激し勇気をもらいました。

震災後、この想いを糧に常務執行役として事務サービス改革に着手しました。お客様目線に立つて事務手続きの迅速・簡便・納得性を追求しています。

四 明治安田生命の挑戦

①アフターフォローで保険を考える

意外と知られていないのは、死亡保険とは異なり、入院・介護等の給付金は加入者ご自身が治療や介護を受けているなか、お手続きをしなければならぬということなのです。また、保険は生活や環境変化に合わせて見直す必要があります。超高齢社会を迎える中、お客様に寄り添う温かいアフターフォローで社会やお客様に貢献していきたいと考えています。

②地域社会への貢献

当社はJリーグのタイトルパートナーとなり「明治安田生命Jリーグ」がスタートしました。これは、Jリーグがめざすスポーツを通じた地域

貢献等の考えに共感したもので、全国ご加入者に支えられる会社として地域貢献で恩返しをすることが使命と考えています。

五 経営指針とモットー

①「四方よし」の経営

近江商人の心得である「三方よし」、これに倣ったものですが、お客様・社会・従業員の「よし」を徹底的に追及し、やり切った時にはじめて会社も「よし」の「四方よし」になると考えています。

②動けば明日が見えてくる

私たちの可能性は無限大であり、それを信じ主体的・積極的に挑戦していけば道は必ず拓けるという私の思いを表現しています。受け身の姿勢では新しい変化は生まれません。これからもお客様目線で積極果敢に挑戦していくことをお誓いします。



秋季散策会 28年度のお誘い

川越初雁会

「小江戸川越古寺散策」

川越を代表する寺院を見学します。一般の観光客では見学できない秘所・秘物満載の二つのコースを設定しました。

一日時 11月6日(日)

午前10時集合

二 集合場所 小江戸「蔵里」

(旧鏡山酒造中庭)

川越市新富町1-10-1

三 出発 午前10時15分

四 行程 「Aコース」

小江戸「蔵里」↓蓮馨寺↓養寿院

↓広済寺↓東明寺↓氷川会館

「Bコース」

小江戸「蔵里」↓光西寺↓中院

南院↓仙波東照宮↓氷川会館

五 懇親会場 氷川会館

六 懇親会費 7,000円

(同伴者 5,000円)

集合場所地図



「Aコース」

・蓮馨寺 豊臣秀吉の御朱印状
・養寿院 国指定重要文化財
・銅鐘、河越太郎重頼の廟所



・広済寺 谷文晁作「龍図」

・東明寺 河越野戦の地

「Bコース」

・光西寺 川越藩最後の藩主

松平周防守の廟、家康書簡

・中院 優美な庭園、藤村が

義母に贈った茶室「不染亭」

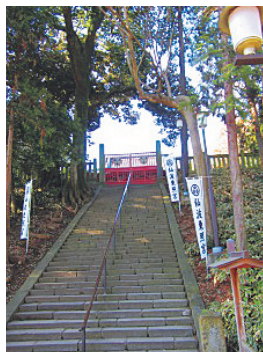


・南院遺跡 石碑、石仏

・仙波東照宮 日本三大東照

宮の一つ 国指定重要文化財

「隨身門」



加島篤人(高34)

平成27年度 散策会の報告

名栗「初雁の森」と 吾野宿の散策

飯能初雁会

11月21日(土)、秋季散策

会が、飯能市を会場にして実

施されました。

当日は、好天に恵まれ田中

同窓会長、青木校長はじめ、

65人の方が参加しました。

まずは、名栗湖畔にある「川

高初雁の森」を散策しました。

植樹して4年目で、大きく成

長した木はないが、紅葉した

木々が見られました。

次に、秩父往還の宿場とし

て栄えた吾野宿の家並を、市

野彰峻氏(高17)から景観重

要建造物に指定された建物を



石田家の建物

中心に懇切に説明していただ
きました。

県内で指定された7件のう

ち、3件がこの吾野宿にあり

ます。

一件目の石田家は和洋を併

せ持つ建物で、独特のハイカ

ラな雰囲気があります。

二件目は、吾野宿で最古の

「厨子造り」と呼ばれる佇ま

いを残す高山家の説明を受け

ました。



高山家の建物

三件目は、明治時代に武家

屋敷長屋門を移築した大河原

家です。珍しい「物見格子」

や重厚なけやきの門扉は圧巻

でした。

懇親会は、休暇村奥武蔵で

校歌、応援歌などでおおいに

盛り上がりしました。

本橋孝之(高25)



大河原家の前で記念写真



大河原家の長屋門

川高初雁の森レポート

27年度の事業予定である「下刈り」作業(6月19日)は低気圧の通過により中止となりました。

このため、飯能市の「森の番人」の皆さんに天候の状況をみて、6月中にお願いしました。

第4回植樹祭は、9月27日(日)、薄曇りのなか、同窓生と現役生(生徒会、応援部、生物部、新聞部、放送部、山岳部)100人が参加しました。作業開始の前に、現役応援部員が参加者を川高応援歌で鼓舞してくれました。



今回の植樹地は、最上部になるので、現役生が大活躍してくれました。

景観と鹿の害を考慮し、「冬ザクラ」「ナンテン」「ヤマツツジ」の約180本を植樹しました。特に、「冬ザクラ」は、樹高2メートル近くあり、植樹地にはほとんど現役生が下から運び植樹してくれました。



池田純一氏(高41)と一年生になった希明君親子は4回連続参加しました。



作業終了後、「川高初雁の森」の看板の前で現役生と同窓生全員で記念写真に収まりました。



これまでの事業実績

植樹面積は約2.5ヘクタールで、4年間で8割の植樹を終えました。

現役生の感想

新聞部 田村拓也(2年) 今回は2年生として2回目の参加でした。

もともと雑木林や森の中を歩き回ることが好きで、植樹当日の朝も早く起きて雑木林に昆虫採集に行っていました。

以前から森林に携わる事業に参加してみたいという思いがあり、昨年の参加でとてもやり甲斐を感じてました。

今年は雨でできるかどうか不安でしたが、雨も弱まり無事始めることができて安心しました。

斜面を登り、重い苗木を運ぶ、傍からみると疲れしか湧かないこの作業ですが、実際



クスノキ

事業費用は4カ年の合計で、約934万円です。

植樹した樹木は、クスノキ2本、ヤマザクラ、冬ザクラ、イロハモミジ、ヤマモミジ、ホウノキなど1000本で、春夏秋冬を楽しませる樹木を植えました。

に携わってみると自分の好きな自然をこの手で作っているという実感が湧くもので、作業が終わるころには清々しい気分でした。

来年は3年生になるので参加することはできませんが、いつかOBとしてまたこの事業に携わり、森の成長を見届けたいと思います

また、鹿害に遭わないよう樹木の選定と植樹の工夫をしました。

植樹料の報告

平成27年度は397人、204万9,700円でした。平成24年度から募集を始めて、延べ2,293人、金額は、1,216万1,128円となりました。

第1期の事業は5カ年間を予定しています。もう1年植樹料を募集いたします。

平成28年度の予定

- ・平成28年5月13日(金) 第1回事業部会開催
- ・平成28年6月17日(金) 下刈り作業
- ・平成28年8月12日(金) 第2回事業部会開催
- ・平成28年9月25日(日) 植樹祭(植樹と下刈り)
- ・現役生と合同作業
- ・平成29年1月18日(木) 第3回事業部会開催



冬ザクラ

第15回「川高くすの木 俳句大会」のご案内

【ご案内】

母校百周年を記念して始めたこの俳句大会も、今年で15回を迎え、幅広い方々が毎年増えています。本年も開催いたしますので奮ってご参加くださるようお待ちしております。

日時 8月27日(土)

受付 正午より

句会 午後1時～5時

会場 川高図書館2階
同窓会室

投句 夏・秋雑詠3句

(郵便葉書に楷書で記述)

投句先 〒350-0048

川越市南通町15-16

佐々木 新

投句締切 7月31日(日)

消印有効



故・松本旭氏

深悼

埼玉大学名誉教授・松本旭大先輩(中35)が平成27年10月30日、心不全のため97歳で逝去されました。

会費 投句3句に付き、

千円を郵便小為替にて。在

校生は無料。

選者

柴崎甲武信氏(中48)

「春燈」同人

本阿弥秀雄氏(高18)

本阿弥書店顧問

●第14回俳句大会

作品集より

俳句大会は母校関係者(教

職員、生徒保護者、卒業生の

関係者等)に幅広く呼び掛

け、今回は60人参加、在校生

は339人が応募。紙幅の関

係から卒業生、在校生の作品

を掲載します。

「卒業生の部」

村田のぼる(中41)

一礼に一礼返す水澄めり

神山 三男(中45)

軒先に秋待ち遠し今宵かな

佐々木 新(中48)

異国語の歓声しきり揚火花

柴崎甲武信(中48)

北方四島一望岬初秋刀魚

小林 洋左(高3)

白牡丹季節を連れて

咲きにけり

斉藤 弘行(高3)

ひそかなる中年の恋巴里祭

桃井 良之(高3)

大輪の菊咲く参道詣でけり

宮崎 敏明(高3)

梅雨明の鐘高らかに蔵の街

橋本 壮一(高8)

青春は鳴き尽くすこと

蟬時雨

岡部つねを(高15)

貨車延々四十輛残暑かな

小林 幸二(高17)

赤富士や激辛カレー完食す

関口 高栄(高17)

蔵街の螢の家並油蟬

大嶋 文昭(高20)

眠る町遠いかなしみ秋の空

勝浦 敏幸(高21)

新天地求め毛虫の大航海

栗原 由郎(高21)

初恋の音を聴きたし鳳仙花

市川 英一(高23)

男にも秘め事ひとつ星祭

「在校生の部」

(天賞) 山内 弘斗(1・H)

紙魚喰いの地図が

語った少年期

(地賞) 水村 友紀(1・F)

うつむいた向日葵と聞く

風の音

(人賞) 池田 凌(1・D)

宿題に壁隔てられ天の川

(特選) 大附 祐也(1・A)

蟬螂に男子校の良さ

ふと気づく

宮岡 諒(1・C)

グランドの歓声高く夏の雲

野澤 仁紀(1・C)

楕円球追う我に鳴く墓

富田 大貴(1・I)

送り火にちらりと写る

祖父の顔

(秀逸) 松本 直也(1・C)

遠距離の二人の空に天の川

長谷川 貴大(1・C)

炎天下をも貫く応援歌

熊谷 昌也(1・E)

鮎探し水面に映る幼顔

梅木 健新(2・F)

早乙女や山吹色の田植唄

塚田 芳輝(1・C)

炎天下ひたすら回す

ペダルかな

細谷 悠太(1・I)

部活後に宿題励む夜の秋

齋藤 康(1・J)

クーラーの科学の風が

子守唄

富澤 佑樹(1・H)

炎昼を切り裂く白球

ホームラン



★年1回の俳句大会のほか、毎月第一土曜日の午後1時より、川高図書館2階同窓会室で句会を開催しています。毎回、大会選者の本阿弥秀雄氏の選句と添削をいただいています。

川高関係者として女性も数人参加しています。こちらの参加もお待ちしております。

★本句会会長柴崎甲武信氏平成27年度NHK全国俳句大会で特選に選ばれました。

天の川佐渡一島に余りけり

座談会 旧制川越中学校を語る 教練・勤労働員・勉学



2015年、戦後70年の節目を迎えた。昭和22年学制が変更され、それまでの旧制中学校、高等学校、大学は、新制現在の高等学校、大学へと名称と内容を変えることになった。我が川越中学校も48年の歴史を閉じ、埼玉県立川越高等学校と生まれ変わったのである。

旧制の川越中学校とはどんな学校だったのか？ また、戦争がどんな影響をもたらしたか？ 旧制中学に在学された中学42回から高校4回卒の皆さまに語っていただいた。

<ご出席者>

宮崎雅好(中42)
入子祐三(中43)
栗原三男(中45・46)
島田早苗(中45・46)
渋谷健(中47・高1)
玉之内淳(中48・高2)
内田紀成(中48・高2)
岡田良平(中48・高2)
斉藤弘行(併設中1・高3)
松井顕敏(併設中2・高4)
(敬称略)

<会報編集委員会>

尾崎勝美(高11)
岡部恒雄(高15)
栗原忠男(高20)
10月22日氷川会館にて

尾崎 本日は大先輩の皆さまにはお忙しい中お越しいただきありがとうございます。私は「川越高校同窓会報」編集

長を仰せつかっております。高11回卒の尾崎と申します。宜しくお願い致します。(中略)

私共「川越高校同窓会報」編集委員会は平成21年に設置、それまでは川高OBの校内幹事が編集を担当しておりましたが、この時から校外のOBが編集を担当し、66号からは住所の判明している全同窓生約2万3千人に配布しております。

現在72号を編集しておりますが、特集として旧制川越中学校に入学された学校生活を送られた皆様に、若いOB諸君に伝え残しておきたい当時の話題やエピソードなどを語って頂き、特集記事にしたいと存じます。司会は岡部同窓会事務局長に担当してもらいますのでご協力のほどよろしくお願い致します。

岡部 同窓会事務局長の岡部と申します。高15回卒です。事務局からもう1人、20回卒の栗原が出席しております。よろしく願います。自己紹介を兼ねて出席の皆さまに一言お願い致します。卒業順ということで宮崎さん

からお願いします。



宮崎雅好

宮崎 宮崎と申します。中学42回、昭和14年入学です。当時は甲・乙・丙の3クラス。倍率は2.4倍。242人の応募で150人が合格しました。私の地元からの合格者は私1人でした。両親の勧めで川中一本の受験ですから、小学校最後の1年間は一生懸命勉強しました。



入子祐三

入子 中学43回卒の入子です。飯能から通っていました。私の小学校からは浦中に2人、川中2人、川女に数人が合格しました。同級生だった駒井豊くんが自分史を書いていきます。ここに持参しておりますが1年生から5年生までの川中生活のあれこれが書かれています。成績表まで載

せていますので参考になると思います。(笑い)



栗原三男

栗原 中45回卒の栗原です。昭和21年に4年生で卒業しました。私の時は筆記試験がありませんでした。小学の通信簿と面接のみ。校長室に「国民は皆戦士」という「コクミンハミナセシ」と読むと不合格！センシは戦死に繋がるからモノノフと読まなければ不合格！なんて嘘のような話もありました。(笑い)



島田早苗

島田 46回卒の島田です。私達の期は4クラス。昭和22年に施行された学制改革の影響か、卒業には5年制(46回)と4年制(45回)の2コースがありました。私は5年生で卒業したので46回卒ということになります。4クラスでし

た。通学はゲートルを巻いて遅刻すると罰としてゲートルを巻いたまま正座させられる。これが痛い！川越駅から隊列を組んで駆け足です。懐かしのゲートルは同期会の名称となっています。



洪谷 健

洪谷 昭和18年に川中に入學。23年に卒業した洪谷です。川中卒の最終クラスです。

川中・川高には縁があり、川高には2度奉職。教員生活の最後は校長でした。



岡田良平

岡田 卒業した証拠に「卒業証書」と「生徒会証」を持ってきた岡田と申します。学びに意欲を持って入学したのに最初は軍事教練ばかり。そして造幣廠への勤労働員。

川中に4年、川高に2年、あわせて6年間学んだことに

なります。



内田紀成

内田 岡田さん、玉之内さんと同じ中48・高2回卒の内田と申します。2年生の時の夏に終戦となりました。

軍国少年で戦時中は海軍を目指していましたが、商船大に入學し船乗りになり世界中を回りました。



玉之内 淳

玉之内 昭和19年、川中に入學した玉之内です。1年から4年までは旧制中学で過ごしました。昭和23年に制度が変更され高校2年に編入されましたが、当時の学年表示では11年生と呼ばれていました。川中に4年、川高に2年合せて6年間学んだことになりました。

岡田 長く一緒にいたから仲がいい。毎年5月25日にクラ

ス会を開き、ワイワイガヤガヤやっています。



齊藤弘行

齊藤 高校3回卒業の齊藤です。よろしく願います。

先輩たちと違って戦時中の記憶がありません。勤労働員の経験もなく農家に応援に行つたぐらいですね。アルバイト的な先生が多かつたような記憶があります。



松井 穎敏

松井 松井と申します。私の時代は混乱期で川越中学校に入學。制度変更があり2年生の時は併設中学校と呼ばれ、卒業は川越高校です。社会に出ると川中・川高OBに出合うことが多い。英語が好きだったので大学は英文科に行きました。川中・川高時代を一言でいえばグッドオールデイズですね。

川中の学園生活

岡部 昭和7年の満州事変以来、戦争状態が続く中、皆さんは川中に在学されていました。学校生活についてお聞きしたいのですが？

宮崎 川中は海軍と縁が深く海軍兵学校や機関学校への進学が多く、浦中と競つていました。卒業時に「恩賜の短剣」を貰う先輩たちが多かつた。川中生は成績優秀でした。

私は、海軍兵学校に78期生として入学しましたが川中卒ということで期待もされ、待遇もよかつたですね。

栗原 戦時中ということもあり軍事教練が勉強より優先されてしまいましたね。軍事教練の成績が悪いと上級学校への進学に影響が出る。そんな時代でした。「予科練」には各中

学へ割り当てがあつたようで2年生の時に「予科練を受けろ」と。「兵学校を受けます」と言ったら「お前なんか合格するか」と言われました。予科練に行つていたら今の場にいらないでしょうね。

入子 教練と言え、陸軍の兵隊さんと同じ訓練、分列行進や歩伏訓練、38式小銃を使った銃の分解手入れ、銃剣術。先ほどお話しした駒井君の本にも出てくるのですがグライダー訓練などもありました。



グライダー訓練

昭和18年	4年生2学期の時間割	駒井豊	『人生七十余年 激動の生涯』								
11月	1	2	3	4	昼食(弁当)				5	6	課外
15(月)	教 練	国 語	公 民	漢 文 副							
16(火)	武 道	漢 文	修 身	物 象Ⅰ							
17(水)	物 象Ⅱ	歴 史	数 学Ⅰ								
18(木)	英 語	教 練	漢 文	数 学Ⅱ							
19(金)	国 語	生 物	物 象Ⅱ	数 学Ⅰ							
20(土)	物 象Ⅰ	英 作	数 学Ⅰ	工 作							
21(日)	行軍、御視閲										

※御視閲は11月21日のみ
物象Ⅰは物理、物象Ⅱは化学
数学Ⅰは代数、数学Ⅱは幾何か？

島田 終戦になって予科練に行ったものが戻ってきましたね。亡くなった方も多く慰霊祭を学校で行いました。

岡部 皆さんの時代、学級数や授業はどのようなものでしたか？

松井 私の時は4クラス。クラス分けは成績順でした。テストの点数や席次が張り出されますから大変でした。

入子 園芸、銃剣道、教練、英語、物理。英語は戦争中もきちっと学びましたね。昭和18年当時の時間割を見ると色々学んでいます。

渋谷 教科書は学校によって内容もレベルも違っていました。川中はハイレベル！川女はちよっと。実業学校はこれ以上は言いません。

栗原 川中は他校に比べればリベラルでしたね。市川先生というリベラリストがいて音楽の授業で「平和の歌」を歌ったり…。

海軍兵学校出身の長谷川先生は「この戦争は負けだ」と言っていましたね。あの時代普通なら「非国民だ」と警察に引っ張られていますよ。

渋谷 漢文が専門だった松田先生から防空壕の中で英語の授業を受けたことがあります。

川中の英語は、正當なキングズイングリッシュ。米軍捕虜の尋問に駆り出されても彼らは米語。ブロークンだから通じない。(笑)

岡田 悪い奴もいました。当時のE組は受験しないクラスで麻雀ばかりしている。コメを持っていくと雀荘にただで入れてくれる。

でも今になってみると彼らのほうがしっかりしている。川中はそういう学校だった。

1里以内は 徒歩で通学

岡部 通学や服装はどうされていたか？

島田 学校から1里以内は徒歩。それ以上の通学は鉄道やバス乗車が認められておりました。

入子 私は飯能から通っていました。本川越駅からだと1里未満で認められない。稲荷山公園駅で降りて入間川駅(現狭山市駅)まで歩く。東上線も西武線も2両編成・男女別。間違つて(?)女性車両に乗ると後で5年生から呼び出され鉄拳制裁！何でわかるのか不思議でしたが、先輩も乗っていたんですね。(笑)

島田 「入学志願者心得」を渡されゲートル、帽子、制服、

柔道着か剣道用具一式などなどを入学前に用意することが義務付けられていました。

齊藤 ゲートルの材料がなく帯芯で作ったことがあります。終戦後着る物がなくて半ズボンで登校したら「坊っちゃん、坊っちゃん」とからかわれました。

玉之内 ゲートル巻競争がありましたね。クラス対抗で競争。巻き上げた順に座る。一人でも遅いと連帯責任で上級生からしごかれる。

渋谷 服装は43回までが学生服に学帽。44回からはカーキ色の制服と戦闘帽。白線が1本入っている。

岡部 部活動などはどうだったのでしょうか？

栗原 全員が運動部に入らせ



遠足。ゲートルを巻いて

られた。柔道、剣道、相撲など格闘技系が多かった。

相撲部は強くて奈良の橿原神宮で開催された全国大会に出場している。

渋谷 当時としては珍しいことに自動車部がありました。平岡さんという東大に行った先輩が寄付してくれた。でもガソリンがない。みんなで車を押して運転を練習した。(笑)

宮崎 剣道部は間中鹿太郎先生が教えてくれました。同期の間坂宏君も剣道部でしたね。

栗原 私は陸上競技部OBですが、当時はどうだったのでしょうか？

渋谷 鈴木間多さんという全国中学校大会1000m優勝の



運動会での一コマ

先輩がおられたが、当時は休部状態だったかな？昭和21年に松本利雄先生が着任してから本格化しました。全国高校駅伝に昭和26年27年と連続出場。全国6位、次の年は3位に入賞するほど急速に強くなりました。1区を走った木村昭夫さんは5000mインターハイ優勝者です。

島田 スポーツは盛んでしたね。遠足もありました。ゲートルを巻いて歩け歩け！とにかく歩く。

クラス対抗の運動会など楽しい思い出もあります。

勤労動員で 兵器づくり

岡部 戦争がはげしくなると勤労動員されていますが、皆さんはどんなことをされたのですか？

玉之内 私達は、造幣廠に1年以上通いました。報償金計算表をもらいました。1年生の時の2月は17円。4月は26円となっていますが実際に手にしたことはありません。

島田 私達も同じ。お金は手にしていない。あのお金はどこにいつてしまったのでしょうか？

19年8月から20年8月まで1年間火藥などを作っていました。



陶製手榴弾

した。生田君という同級生が、作っていた陶製手榴弾の爆発事故で亡くなりました。高篠君は腕を失いました。終戦の玉音放送は造幣廠で聞きました。渋谷 私達は朝霞にあった被服廠。風船爆弾などを造っていて食事がよかったです。飯盒で食事を持って帰る先生がいましたね。同じ廠内に川女生も勤労働員されていて服のほこ

2月分報奨金計算表			
1年2組 37番			
氏名 玉之内 淳			
交付金		17円00	
内 訳	授業料	4	50
	父兄会費	1	50
	報國團費		
	其ノ他(積立金)	2	00
	手渡金	7	50
	特別会計繰入金	1	50
本人名義貯金			

陸軍造兵廠川越製作所
報奨金計算表

るびなどを縫ってくれる。それを期待してバラ線にわざとひっかけて服のほころびを作り、縫ってもらう不屈きな奴もいましたね。私はそんなことはしませんでした。(笑)

入子 私たちが勤労働員された被服廠では、昭和20年6月に退所式がありました。終戦2カ月前のことです。

岡部 内田さんは空襲に遭わ

れたとお聞きしておりますがどんな状況だったのですか？

内田 日曜日で勤労働員は休みでしたが川中で教練があった。教練が終わると空襲警報が鳴った。自転車で越辺川の

土手にさしかかった時に艦載機に襲われました。あわてて自転車から飛び降り伏せました。超低空飛行で襲ってくる飛行機のパイロットの顔が見えた。まだ覚えています。本

当に怖かった。

渋谷 空襲といえば、川越在住の生徒は学校にすぐ駆けつけなければならなかった。御真影を守ることによって学校に召集させられた。

岡部 内田さんご無事でよかった。ところで他校との交流はどうだったのでしょうか。

島田 親戚が川越女学校の校医をしていましたのでくつついて文化祭に行ったことがあ

現役生への伝言

伝言

岡部 最後に川高生にメッセージをお聞かせください。

松井 とにかく英語を身に付けてほしい。高校の英語は役に立たないとよく言われますがそんなことはない。しっかり身に付けてもらいたい。

渋谷 校長の時こんなことが

ありました。小さな子供が「大きくなったら川高に行く」という。どうしてと聞くと「道に缶を捨ててもしかられない」という。赤面です。近所からよく苦情があり、謝りに行く。「なんだ渋谷先生か…」また赤面です。よく生徒たちに注意をしましたが直らない。勉強も大切だがルールを守る。社会常識を知る人にならなければならない。川高生は本来そういう生徒たちだった。

岡部 交通ルールを守らない：今の生徒もそうです。この間も注意しました。

渋谷 もう一つ。川越高校は大学への「通過点」ではないということを自覚して

もらいたい。川越高校での生活は社会に出てきつと役に立ちます。大学では得られない何かを掴んで卒業してもらいたい。

岡部 大分時間も経ちました。長時間ありがとうございます。皆様の時代は戦争中ということもあり川中・川高の長い歴史の中で特殊な時代だったと存じます。伝統を守り伝え後輩たちに託していく事が川越高校の発展に欠かせない要因だと思います。皆さまの貴重な体験、話を編集整理して次号同窓会報に掲載させていただきます。

本日ありがとうございます。

予科練 昭和5年に開設された航空機搭乗員養成のための飛行予科練習生制度。15歳以上17歳未満の高等小学校卒業者が対象。3年間の予備教育と1年間の飛行教育によって搭乗員を養成した。昭和12年、旧制中学3年修了者を受験資格とする甲種が新設された。

〈ことば解説〉

旧制中学校

明治4年、小学校での義務教育をベースにした「学制」が公布された。全国に小学校を5万3750校、中学校を256校、大学校を6校(最終的に7校)を置くことになった。

我が校は、明治32年に埼玉県第三中学校として開校、34年に埼玉県立川越中学校と改称した。

ゲートル(巻脚半)

戦前、陸軍将校はズボンの足捌きを良くし、すねを守るために長靴を履いていたが、兵士は同様の目的から幅10cmほどの厚手の布(ラシャなど)で巻き上げていた。この布をゲートルと呼んだ。戦争中は同様の目的から男子に広く普及使用された。ゲートルはフランス語。

海軍兵学校

旧日本海軍の海軍士官(兵科)を養成する教育機関。徳川時代に設立された海軍操練所が明治3年に築地で再開されたことに始まる。その後海軍兵学校と改称された。

受験資格は16歳以上19歳未満、学力は旧制中学4年終了時点が基準であった。合格者は、中学校5番以内が6割と難関であった。

予科練

昭和5年に開設された航空機搭乗員養成のための飛行予科練習生制度。15歳以上17歳未満の高等小学校卒業者が対象。3年間の予備教育と1年間の飛行教育によって搭乗員を養成した。昭和12年、旧制中学3年修了者を受験資格とする甲種が新設された。

風船爆弾

昭和19年、偏西風を利用してアメリカ本土爆撃を目的にした兵器。和紙をこんにやく糊で貼り合わせた直径10mの気球に15kg対人爆弾、5kg焼夷弾2個を装着させた。

定時制ものがたり

全国生活体験発表会は、定時制及び通信制高校に学ぶ生徒が、学校生活を通じて、感じ、学んだ貴重な体験を発表し、多くの人々に感動と励ましを与えることを目的として開催され、平成27年度で第63回を迎えています。

本校の定時制は、平成23年3月に閉課程となり、63年間の歴史は閉じられました。

しかし、この間、本校からはこの発表会に2人が文部大臣賞を受賞しています。

第36回全国生活体験発表会(昭和63年11月27日)

文部大臣賞受賞

辻本由起江(定40)

「今、新たな決意で」

「教師になりたい」初めてこう思ったのは、中学三年生の春です。

父は借金から逃げるため家を出ました。中学で、何も資格も持たず、外に勤めたこともない母が、二人の姉と私の三人を育てるには、ただ夢中で働く以外にありませんでした。

小学校、中学校と、学級委員などを積極的に務めていましたが、家のことを話すのがいやで、ずっと特定の友だちはいませんでした。

私が入学した高校は、新設の選択制高校でした。

「とにかく大学入試で有利になるように」と考えてその

高校を選んだ私は、典型的な受験マシーンだったかもしれない。あいかわらず自分を語るのがいやだった私には、やはり特定の友だちはいませんでした。それに、「人と人がほんとうに理解しあうことなど、できるはずがない」と思っていましたから。

しかし、二年生になったころ、私はだんだん、今の社会や自分に対して疑問を持ちはじめました。もっと身近なことでいえば、大学の入試競争率が高まっていくなかで「どんな受験勉強に没頭しているのか」と思いました。「社会のことについて、学校生活についても、もっとみんなで語り合うべき

じゃないか」と思いました。そのときになってはじめて、私は自分の孤立を感じました。一度気にしはじめると、孤立感は強まるばかりでした。そんななかで高校に通う目的が見えなくなり、登校拒否になりました。今までの高校、今までの生活、すべて逃げたい一心で定時制への転校を決めました。

定時制二年に転校した私は、まさにカルチャーショックをうけました。先生の声も聞こえないうるさい授業、勤労学生というイメージからほど遠い生徒たち、「一体ここは何なんだ」という感じです。「こんなはずじゃなかった、もう嫌だ」という気持ちでいっぱいになり、クラスメイトもいるなか、休み時間に廊下で泣きだしたこともありま

す。けれど「全日制のころのような誤ちはくり返すまい、孤立しないようにしよう、校内活動でも積極的になろう」と努力しました。

いる人、本当に素敵だと思います。また、クラスの何人かで徹夜でテスト勉強したとき、授業中はいつもうるさくしている人が、「仕事休みたいってよく思うけど、僕だけさぼるわけにはいかない」と言って、眠い目をこすりながら仕事に行く姿を見たときには、本当に涙がでそうな気持ちでした。

仲間たちの素晴らしさを発見すると同時に、私には、今の定時制というものが見えてきました。私が通う川越高校の入試競争率は、昨年度の二次募集で二・五倍、今年度は二次どころか、一次募集で定員を上回る一・三倍です。受験生のほとんどは全日制で落とされた人や、「お前の成績じゃ全日制は無理だ」と中学校の先生に言われ、傷つけられた十五歳です。生徒の負っている心の傷は、本人でさえその痛みを感じなくなるほどに深く、いやしがたいものになってきている

と思います。

私は、みんなの力になりたい、と思いました。動きださずにいられなくなったので、そんな思いから、私たちの勉強条件をよくしよう、互いに励ましあいながら成長していこう、という目的を持つ「定時制・通信制教育をよくする会」の実行委員長もつとめ、頑張ることができました。

定時制に通い、働くようになり、さまざまな環境で生きる仲間たちを知るなかで、私の母に対する見方も変わって



(前列右より5番目)

きました。

貧しい農家に生まれた母は、家の手伝いに追われ、進学もできず、何も資格も取得できなかったのです。しかし今は、時間と気持ちに余裕のできた母は、地域の懇談会にも出かけていくようになりました。

した。苦しくても弱音をはかず、そして今、五〇歳を過ぎてどんどん成長していく母は、誰に対しても誇れる私の大切な母さんです。

いま私は教師を目指し、大学へ進もうと決心しています。単に女性にとつての有利

な職業としてでなく、仲間たちの力になりたい、教師として再び定時制へ帰ってきたいと思うなかでの新たな決意です。

私たちが苦しめるさまざまな問題の根本にあるものを見つめ、その解決のため仲間と

ともに努力すること、しつづけることが、いまようやくつかんだ私の生き方です。この生きる姿勢をけつしてくずさず、教諭を目指し、大切な人たちの力になれる人間に成長して行こうと思います。

(「誇りある青春」より抄録)

さった先生のおかげで少しずつ唇の動きを読めるようになりました。口話法を覚えてからは嫌な思いをすることはほとんどなくなりました。

現在、私は、生徒会の役員をしています。最初の仕事は予餞会でした。生徒会役員のみんなでダンスを披露しました。準備の段階や練習の時には、もてしまったこともありましたが、最後には、みんな協力して楽しく踊ることができ、よい思い出になっています。

そして一番力を入れた行事が文化祭です。二カ月前から準備に取りかかり、当日まで作品の仕上げや装飾の作業をしました。自分達で考案し、生徒全員が参加する文化祭にすることができ、とてもよかったと思います。

私は今、多くの人々に支えられていることを実感しています。そして言葉で言い尽くせないほどの感謝をしています。今も聴力は回復していませんが、日常生活や学校生活にはほとんど支障なくすごすことができるようになりました。

今度は自分が誰かの支えになり、人を励ます事のできる人間になりたいと思っています。(「働きながら学ぶ若者の体験」より抄録)

第57回全国生活体験発表会(平成21年10月18日)

文部大臣賞受賞

鈴木 麻衣(定63)



「ハンディキャップと共に」

私は、二歳の時に原因不明の感音性難聴という病になり、聴力をほぼ失いました。まだ幼い私はそのことを理解することができませんでした。

私が耳の異変を自覚したのは、小学校に入学してからのこと

です。周りの友達と言う蚊の音や授業で話している先生の声も私には、ほとんど聞くことができませんでした。時には自分の動揺を抑えることができなくなり、周りに当たり散らすこともありました。その後も病状が改善することはなく、学年

が上がるにつれ、私はいじめの対象にされました。

中学に入学してからは、私は人と話すことに対して恐怖を感じるようになってしまいました。相談室登校をしていました。中学三年生の進路を決める時期のなつても、投げやりな毎日を過ごしていたので、進学しようとは考えていませんでした。そんな時、中学校入学当初から私の話を親身になって聞いてくれた先生から手紙をいただきました。

その手紙には「学校と一言で言っても、今はさまざまな学校があるから前向きに考えて進んでほしい」という私を励ます内容でした。その手紙を読んで高校に進学してちゃんと卒業しようと思いました。そこで自宅から近く、時間の余裕や自分なりのペースで勉

強できる川越高校定時制に進学しようと決意しました。川越高校定時制に入学した当初は、またいじめられるのではないかと、友だちはできるのか、毎日が緊張の連続でした。

そこで私は、もう誤解され続けるのは嫌だと思い、勇気を出して自分の病気の事を自分から話すことにしました。クラスメイトの人たちも始めは戸惑いもあつたと思いますが、私のことを優しく受け入れてくれました。特に嬉しかった事は、私が難聴であることを知らない人と話していたとき、聞こえない私との間に友人が立ち、説明してくれたことです。

授業でも先生の話がよく聞きたれなかったときは友人がノートを見せてくれ、大きな口をあけて教えてくれました。また先生方も大切なことは黒板に書き、大きな声で読み上げてくれ、プリントを配るなどして分かりやすく授業

を進めてくれました。私はそのような周りの配慮に、大変助けられました。

しかし依然として聴力はよくならず、今年の四月に担当の医師から「残念だけど、そろそろ覚悟をしたほうがいいですね」と告げられ、自然と涙が出て、頭の中が真っ白になりました。そしてその時、私はある決意をしました。自分でもできる事が何かあるはずだと思いました。

そこで私は、「手話」と「口話法」を覚えることにしました。特に口話法は担当の医師の勧めもあり、積極的に指導を受けることにしました。「口話法」とは唇の動きを読み、言葉を理解することで、習得するには大変時間のかかるものです。そこで私は言語療法士の先生の指導を半年間受け、今も続けています。最初は全く読み取ることができなくて大変苦労しましたが、熱心に指導して下

各地区初雁会だより

坂戸初雁会

会長・清水純一(高20)



一昨年、長年ご活躍いただいた丸章夫(高8)会長より会長勇退との申し入れがありました。

春の役員会で若い方に世代交代したほうがよいとの意見が大半を占め、不肖私が会長の大役をお引き受けすることになりました。

第22回総会で、会長に清水純一、副会長に野口達雄(高20)、笠間益伸(高21)、市川明廣(高22)、藤野哲(高23)が承認され、副会長も若返りました。

第23回の総会は平成27年12月5日(土)開催され、本校同窓会長の田中正氏、校長の青木勇藤氏もご臨席されました。

総会記念講演会は、坂戸市総合政策部長で初雁会の実質

幹事長として長年お世話いただいた新井彪氏に講師をお願いしました。懇親会も近隣の初雁会会長等が参加され、和気藹々と交流を深めました。また、長年交流のある飯能初雁会に笠間副会長が、日高初雁会と東松山初雁会総会には私が出席し、楽しく有意義な時をすごさせていただきました。

小川初雁会

会長 田村昭雄(高17)



前会長中山雅義氏(高17)の急逝により、何の心構えも無く、急遽、会長となりました。会員の皆さまには多大なご迷惑をお掛けしている事と恐縮しております。

昨年は、東松山初雁会総会、川高初雁の森の植樹祭、飯能初雁会主催の散策会に参加させていただきました。

当会も昨年は(株)日本アボック会長の犬竹一浩氏(高13)をお招きして、マジック

を披露していただき、和気藹々の総会となりました。

小川町も昨年は小川和紙の手漉き技術が世界遺産登録され、喜びに沸き返っておりますが、地元の会としてもこれを上手に活用する事が出来ないかと模索しております。四十代、五十代の会員が少なく会員募集に苦戦しています。健康、体力維持、コミュニケーションの為に、当地のウォーキングコース散策、史跡・遺跡散策等を考えて、会員の皆さまと一緒に活動をしていきたいと考えております。皆さまもぜひ一度小川町へお越し下さい。楽しみにお待ちしております。

川越初雁会秋季散策会

本年の秋季散策会は、細川紙で有名な東秩父村と小川町を訪ねました。

11月7日、19人の一行は、本行OBが設立に携わった東秩父村の「彩の国ふれあい牧場」に行きました。乳牛、食用牛の育成するばかりでなく、一般に広く公開されています。標高は600mほどあり、関東平野一体を望むことができ、天気の良い日には、東京スカイツリーもみること

ができます。

続いて、「東秩父村和紙の里」を訪ね、昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙の由来や原料や作成工程について解説を受け、実際にその工程も施設内で見学することができました。



細川紙原料の木材の説明

続いて、昼食会場として小川町の地酒蔵である「晴雲酒造」を訪ね、併設されている食事処「玉井屋」にて小川初雁会の田村会長、鈴木元会長にもお越しいただき、地元の有機野菜を使用した料理と日本酒を頂きながら、大いに親睦を深めることができました。

食後には酒蔵見学をして、清酒ができるまでを解説して頂き、工程を学んだあとはさまざまな商品を試飲して、思いの品をお土産にして帰

路につきました。

原 宗康(高41)



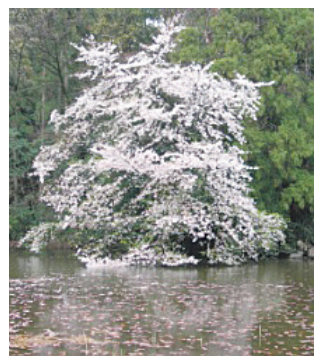
在京初雁会春季散策会

在京初雁会では、例年花見を兼ねて春の散策会を開催している。最近では、「旧岩崎邸」東大構内「関口芭蕉庵」椿山荘「飛鳥山公園」など散策した。

平成27年の散策会は東日本大震災により中止となった「石神井公園」を4月5日に訪れた。



当日は雨模様であったが26人参加、午前11時に西武池袋線「石神井公園」駅に集合後、1時間半程散策した。



公園内では豊島氏の居城であった石神井城跡を見学、太田道灌などが活躍した往時を偲んだ。三宝池、石神井池からの霞みのかかった美しい桜を堪能した。

午後からは日本蕎麦屋「稲田屋」にて懇親会を開催、西信之会長(高17)の挨拶、栗原三男(中45)の乾杯の発声後、会員の近況報告や昔話などで大いに盛り上がり、盛会裡に散会した。

当会は在京と銘うっていますが、どなたでも大歓迎です。また、ご夫人同伴で多くの方が参加されているのが特徴です。

春の散策会、定期総会、秋の講演会などがあります。是非、一度お越し下さい。

大館 廣(高21)
090(5569)0360

狭山初雁会秋季散策会

狭山初雁会では創設以来、散策会を重要な事業の一つとして位置づけ、地元の本田技研埼玉製作所、ロッテ狭山工場、武蔵野学院大学、航空自衛隊入間基地等を訪問し、見聞を広めようと取り組んできました。しかし、今までの訪問先が工場など平日しかできないので、当会の現役で働いている者は参加しにくかった。

このため昨年から日曜日に行に切り替え、昨年は富岡製糸工場、碓氷第三橋梁(通称めがね橋)見学を初の観光バス仕立てで実施した。

今年は筑波学園都市のJAXA筑波宇宙センターとアクアワールド大洗水族館の見学。午前中はアクアワールド大洗水族館を見学、イルカ・アシカショーや海洋生物に心をなごませた。



宇宙飛行士の服を囲んで

午後はISS日本実験棟「きぼう」の運用管制室を見学したが、日本との時間差のため、ISS滞在中の油井宇宙飛行士との交信は出来なかった。

しかし、目の前の運用管制室が地上400km上空のISS「きぼう」の実験をコントロールしているのを知り感動した。



今後も実りある魅力的散策会を企画していきたい。

佐伯一平(高14)

川島・桶川初雁会散策会

平成27年12月6日(日)、地域を知ろうという勉強会を開催しました。今回は、桶川地区の会員より、桶川市川田

谷の台地に建立された「泉福寺」を見学した。正しくは「東叡山勅願院円頓坊泉福寺」と称する。



「勅願院」とは、淳和天皇の勅願により天長6(829)年に建立され、御親筆を賜ったとする院名である。このため、葵のご紋の人は入ることができなかった。

「東叡山」は、天台宗の本山の延暦寺がある比叡山に対し、東日本の天台宗の中心という意味で、川越の喜多院が譲った江戸の寛永寺と並び称されている。

又、「円頓坊」とは天台宗の修行道場のことで、学僧に「円頓戒」の修業を施し、資格を与える寺だという。

清水英雄住職より、天台宗の教えの根本は「ありのままに、であること」と説法を受ける。

この寺で目を引いたのは、山門にある石像金剛力士像で



清水住職(中央)の説法を聞く

ある。右が那羅延金剛で口を「阿」と開け、左が密舎金剛で口を「吽」と結んでいる。また、この山門に勅願の写金字「東叡山」の大額がある。さらに、桁には左甚五郎作と伝えらる龍の彫刻が鎖でしばりつけられている。



荒川を挟んで桶川の対岸に住む川島の人間にとって初めて見聞することが多かった。

大野恵司(高20)

同期会

傘寿の会のあとは

「高六会」は永遠に

我々は昭和26年4月、白線帽の川越高校入学。青葉繁れるくすの木の門を入り、大正モダニズムの雰囲気にもまれた講堂の玄関前で各クラス毎の記念写真に緊張。我々320余人が机を並べたのは旧制中学時代の寄宿舎。その後、旧校舎改築中は旧川越城本丸御殿(武徳殿)での授業は尊い経験だ。

昭和26年、対日平和条約締結後、戦後禁止されていた柔道、剣道が復活されたが、未だに戦後を引きずっていた。

平成27年3月15日「傘寿を祝う会」第10回高六会同窓会を、川越プリンスホテルで開催、73人が出席した。

記念撮影後、柴野節夫君の名司会で駒井力幹事長の挨拶に引き続き、唯一の同期国会議員、川越高校同窓会長が挨拶、今更、叙勲や褒章の話題もなく、しばし、各テーブルで昔話や病気の話に花が咲いていた。

初回の同窓会「厄払いの会」は、静止衛星が機能開始の日でそれに関わった仲間。今年

は誰も知るカミオカンデにも関わった仲間、そして3・11にも耐えて石巻で頑張る仲間の家族の紹介もあった。

還暦、古希、喜寿、傘寿と会が続いたが、その間には、国会議員当選祝いや大使派遣の壮行会もあり、また、グループで北海道、九州への旅や、家族共に外国旅行も行い、台湾やアンコールワット、ラスベガスへの旅も懐かしい。

会は今限りとの声もあるが、最後の何人でもやるぞという心構えの仲間が多いので、今後の展開が更に期待される。大河原光行(高6)



高25回同期会

「おおつ、久し振り!」「元気だったか!」そんな声が開宴前、受付のあるロビーの至る所から聞こえた。

昭和48年3月に卒業して以来、2回目、7年ぶりとなる「昭和47年度卒業生同窓会」が、平成26年11月22日(土)に出席者154人、そして4名の恩師(荒井桂先生・斉藤尚先生・小嶋芳房先生・松崎中正先生)をお迎えして、川越東武ホテルで開催された。

同窓会は小生の挨拶と横山好司君(川高教諭)の乾杯で開始、出来るだけいろいろな人達と旧交を温めてもらうと立食スタイルにしたため、すぐに会場内のあちこちで人の輪ができた。暫く歓談の後、恩師からご挨拶をいただいた。40数年前と変わらぬユーモアに溢れたお話に、しばし会場全体が笑いに包まれた。

結びの前に、当時、応援団長だった青野博君、内沼利泰君、大久保正之君の3人プラス飛び入りの松浦和之君の4人のリードにより、出席者全員が声を合わせ、高らかに校歌と応援歌を歌った。中締めは細田宏君(前・川高校長)が行った。



左より、荒井、斉藤、小嶋、松崎、各先生方

今後の同窓会について、次回は2017年(平成27年)11月28日(土)、次々回はその3年後の2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックの年に開催したい旨の提案があり、出席者全員の承認を得た。

お開き後、各クラス毎に分かれて二次会が開かれ、中には三次会、四次会まで流れたグループもあり、この日に限り、夜の更けるのも忘れて、語り合った同級生が多かったようである。

47年度卒業生の皆さん、2017年(平成29年)11月にお会いしましょう。

島田洋一(高25)

高29回同期会 ノーベル賞・梶田隆章君も 参加して

平成28年1月9日(土)、恩師の小島芳壽先生をお迎えし約140人の同期生が集い、高校卒業以来初めての「川越高校第29期生同窓会」が川越東武ホテルで開催されました。昨年9月末、29期同窓会の案内が届き懐かしさがこみ上げてきたものの、卒業して38年が経ち高校時代の記憶も薄れ顔も名前もほとんど思い出せないのでは出席をためらっていました。

そんな中でのビッグニュース。同期生である梶田隆章君がノーベル物理学賞受賞。これはもう出席するしかないと思い、友人と誘い合わせ参加の申し込みをしました。

当日は午後5時の開会。発起人代表の根岸秋男君のあいさつで29期同窓会と「梶田君のノーベル賞受賞を祝う会」はスタートしました。引き続き乾杯、歓談。あちこちで人の輪ができ「久しぶり」「元気か」「今どうしてる」という声が聞こえていました。38年振りの再会ということで最初は緊張した雰囲気も漂っていましたが、一声言葉を交わ



小島先生・梶田君を囲んで

せばそこは青春をとともに過ごした仲間、一気に38年の時を超えあのころの語調を取り戻し旧交を温めることと写真を撮ることに時を忘れてしまいました。

宴もたけなわのころ、主役でもある梶田隆章君のスピーチ。梶田君は「人前で話すのは苦手」と言いながらも受賞の喜びを満面の笑みとともに語り、満場の暖かい拍手に包まれました。

予定された2時間はあっという間に過ぎ、全員での校歌、応援歌の合唱、記念撮影。今回は還暦を迎えるころとの申し合わせをし、懐かしく楽しかった宴は閉会しました。



もう今日この頃、旧友と再会することができ、あのころの若さを取り戻せた気がします。こんなにすばらしい会を設定してくださった発起人ならびに幹事の方々にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

小泉光男(高29)

63回同期会

4年遅れの卒業式

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響を受けて、4日後の卒業式が中止となり、卒業式の代わりに校内放送での「卒業式を送る全校集会」が開かれた。

4年たち、社会人となる節目もあり、我々の卒業式について、自分達でやろうという仲間内でのお酒を飲んで出てきた他愛ないものでした。これは、「川高は卒業生が企画する卒業式なので残念だ」というみんなの心の中にある思いだった。

当時の細田校長に相談したところ、体育館など施設の提供を快諾された。在校時の松本千尋先生と連携をとりながら、運営の準備を進めてきた。

平成27年3月14日の式典では学年主任の既に退職していた小島正喜先生から卒業生一人ひとりに「記念証書」が授与され、在校時の清水応援団長の演武に合わせ応援歌、校歌を合唱した。

正直、当時の学年団の先生方と卒業生150人以上の方々が参加するような式典になるとは思っておらず、あらためて川越高校関係者の結束

の強さを実感した。

式典の表題を校歌の一節を切り取り「切偲の友誼の集い」とした。「切偲」とは孔子の言葉であり、「善を勧めて励まし合う」という意味がありこのことを共通の意識をもって、高校生活という青春の時代を共に過ごした仲間として、当時の先生方を交えながら再会の機会を用意できたことに感慨の念を感じている。

協力していただいた先生方、同窓会の方々、大勢の関係者の方々に改めて感謝するとともに、切偲の絆を心の片隅に抱きつつ、社会人として邁進していきたい。

上野温(高63)



投稿

小林超道(道夫)氏(高5) 書展を開催

小林超道氏の『むの風景』と題する書展が銀座鳩居堂で、2015年12月1日〜6日にわたり開催された。

1987年に第1回「ん」展を鳩居堂で開催後、数年間、日記のように書き留めた「む」20点ほど展示したものである。



「想念を巡らすこともその発想を紙面に定着させるのも『人のいない』所作です」と主張している。

伝統的な書道展と違った異空間が展がっている。

同氏の生き方について、高校時代の佐藤徳四郎先生の教えが自分の今日の生き方の骨格になっていると語っていた。

岡部恒雄(高15)

4 高校囲碁交流戦

平成27年11月18日(水)、「囲碁サロンさいたま副都心」で、浦和、熊谷、春日部、川越の4校が第3回囲碁交流戦を開催した。総勢24人が参加し、一人3局を打ち、その結果、川越高校は準優勝だった。優勝は強豪を集めた熊谷高校であった。

川越高校の参加者は、代表の関口一郎(高5)、加藤公男(高5)、加藤進吾(高10)、三宅義信(高12)、浅野裕幸(高15)、新井望丕(高15)の面々。



来年は、春日部高校が幹事となり春日部で開催します。そこで、同窓生の皆さん、そこそこの方は御連絡下さい。月一回の鍛錬会を開くなどして研鑽したいと考えています。

問合せは同窓会事務局まで
三宅義信(高12)

「マスターズ甲子園」

出場決定

2016年マスターズ甲子園への出場をかけて新たに大宮東、南陵の2校を加え総勢24校が参加した第10回埼玉県大会が10月10日から開幕した。

川越高校野球部OBチームは、11月3日、初戦(2回戦)の春日部工業高校戦を延長10回、今大会から導入されたタイプレック方式の末、8対7でサヨナラ勝ちをした。

続く準々決勝の鴻巣高校戦は、追いつかれ、勝ち越し、逆転され、追いつきという激戦となり、最終的にはまたもや10回タイプレックの末、6対5でサヨナラ勝ちした。11月28日の準決勝は、優勝候補筆頭で甲子園出場世代を集めた市立浦和高校相手に少ない



チャンスタイムリーでものにし、8対5で勝利した。連戦の翌29日は前年度優勝校の春日部東高校を、連投の投手陣が奮起し、また若手OBの活躍もあり、6対1で破り、4年振り3度目の甲子園出場が決定した。

応援部OB、吹奏楽部OBの方からも球場内外で応援をいただき、最後は熱烈な一体感の中で優勝を勝ちとることができた。

本番の甲子園は、2016年11月6日(日)に、徳島県代表(相手校未定)と対戦する。

梶田憲一(高46)

「また甲子園に行けるぞ」

応援部OB会

昨年11月29日、野球部OB会チームがマスターズ甲子園本戦出場を決めた瞬間、県営大宮スタンドでは、応援部、吹奏楽部のOB約20人も喜びを爆発させていた。グラウンドに整列した野球部OBチームとともに校歌斉唱して、感動を分かち合い、夢の舞台に立たせてもらうことに感謝した。

2010年、12年のマスターズ甲子園出場の際、応援部、吹奏楽部OB有志は甲子園球場まで駆けつけ、野球部

OBチームに声援を送るとともに、校歌、応援歌を球場に轟かせた。3回目となる今年のマスターズ甲子園についても準備を始めている。

きくところによれば、OBが組織的に応援する学校は他にないとのこと。吹奏楽部OBは各自楽器を持ちより、校歌、応援歌を演奏。応援部OBは現役部員から借りた学ランに身を包み、年甲斐もなく蜜声を張り上げ、アルプススタンドには紫紺の大団旗が翻る。歳を重ねてもその瞬間は野球応援に汗を流した高校時代に帰るのである。



今年は過去2回を上回る応援で、野球部OBチームをサポートしたいと考えています。川高同窓生の皆さん、甲子園に集え！奮え友よ！

在京初雁会創立60周年

記念誌を発刊

昭和28(1953)年3月18日に、銀座「ビルゼン」で初の会合を開き、同年11月初代会長矢部健次郎氏(旧制中学1回)を選出し、創立しました。

そして、当会の60周年記念として、平成25年度の母校同窓会秋季散策会「東京湾クルーズ」を主催し、多くの参加者を得ました。

これと並行して記念誌発行の機運が高まり、平成27年12月に『在京初雁会』を発刊しました。

設立経緯・歴史・活動状況等を記録としてまとめるとともに、会報「鐘つき堂」(昭和48年4月創刊・年2回発行)も現存するものは全て掲載しました。さらに、第二次世界大戦当時に通学した諸先輩方による座談会も掲載しています。

ご関心のある方は5000円で頒布いたします。

大館廣(高21)
090(5569)0360



母校だより (一)

文化講演会

新しい時代

指揮者 山田あつし(高36)



■自己の基準の確立

「人の幸せ」の物差しが変わる時代が到来している。

数年前、米国で「しあわせ指数」というものが、今後の「豊かさ」を図る指数として提案された。若者たちは、これを感じ取っている。

「未来」は現在を見つめることから始めなければわからない。他人の言う通りに自分の人生を使つてはいけないのだ。私は、随分と「自分と向き合う」のに時間がかかった。最近まで私は「暴走」して、たにすぎない、と感じることが多い。「暴走」の中にも、「導き」はあった、しかし、もっと早く自分と向き合うべきだったのだと思うことが実に多い。やっと、「自己の基準」

が誕生することが出来た。

多くの同期の話によれば、私の年齢になると、会社生活の行く末もわかってくるという。

私の先輩・後輩には実に優秀な人物が多い。

私の人生はどうか？

—会社はとうの昔に辞めてしまった

—名刺を見ても誰もわからない(しかも英語！)

—持ち家なし、車なし

私は、自分の人生を成功しているなどと、思ったことがない、むしろ苦しみの連続！しかし、その「暴走人生」が今、役割を持つようとしているのかもしれないと最近思い始めた。

■音楽への思い

県内有数の進学校である川越高校に入学、その後一浪して早稲田大学入学、就職は日本アイ・ビー・エム株式会社。入社後も営業成績はいたって優秀で、忙しくて、土日も残業も当たり前。の毎日だったが、やはり、「既定路線」を順調に歩んでいたのかもしれない。この間、ずっと川越高校時代よりハマってしまつた「合唱」に関わり、そして合唱を通じて師匠である「福永陽一郎」に出会う。私の中にくすぶる「音楽」への火種を、抑えきれないものにしたのは、この師匠の死であった。「音大の免

状がなければこの国で仕事はできない」「私を抑えていたのは師匠のその言葉であった。「師匠の死によつて暴走は始まる」自分でオーケストラを雇つて、演奏会を企画すれば誰も文句はないだろう。指揮者兼プロデューサーの誕生だ。指揮者になるのなら、世界で認められる指揮者になりたい。暴走は止まらない。

自ら「勉強させて欲しい」とニューヨーク・シティ・オペラの門を叩く、時にそんなことがまかり通つてしまう。指揮者研究生、米国ツアー指揮者、副指揮者、正指揮者、もうやめようと思うたびに次の階段が用意される。

「十分でない」神様はいつも100%を与えてくれない。家族とは離ればなれ、娘ともろくに会えない。そんな生活が何年続いたか？ リンカーンセンターデビュー、国連での演奏会、シティ・オペラ日本公演。自分の知らない「山田あつし」が独り歩きを始める。リハーサル、打ち合わせ、移動、本番、あとは、食べているか、寝ているか。そんな生活が続く、ついに神様がストップをかける。倒れた！入院生活、リハビリ、通院。指揮者どころか、社会人として復帰できない。絶望にひれ伏して、人目を避

けて生活していると「遠くから、かすかに」呼び戻された。エルサレムで指揮をして欲しい。それが、その後の人生にどう結びつくのか？ わかるわけがないのだが、自分が指揮をしたいのかもわからなかったが、引き受けることにした。そこで、また新しい出会いがあつて、ニューヨークに戻ることにした。

■東日本大震災が転機

そして、東日本大震災が起こる。「暴走人生」にも多少の利用価値があつた。被災地は膨大かつ広大だ、ただでさえ高齢化が進み、若者がほとんど外に出て行く、復興？などではない「作り変えだ」と私は思った。

川越高校音楽部、当時まだ弱小の合唱団は、いつも福島男声合唱に憧れていた。合唱の全国大会は東北勢で溢れていた。それは、今も健在だった。海外で日本の合唱を披露するとその訓練の行き届いた、「統率された音楽とハーモニー」に人は度肝を抜かれる。「東北の高校の合唱」こそ、日本が誇れる「日本一」世界一「つまりグローバル・スタンダード」なのだ。オペラハウスで働いていた私には「被災地の未来へ通ずる糸口」への確信があつた。

☆明日を作る高校生に檜舞台を踏ませよう！

☆一人でないことを伝えよう！

☆将来にわたる友情のネットワークを作ろう！

「プロジェクト ハンド・イン・ハンド」が生まれた。

そして、そのプロジェクトが、私を「くすのきの下」に戻してくれた。懐かしい後輩、優秀な先輩に出会い、ニューヨークで一緒に音楽をすることができた。世界を一周して元の場所に戻ってきた感じがした。「むらさきにおう 武蔵野の天与も深き川越に…」

■反面教師として

入学式の直後に聞いた、男声四部和音の綺麗なハーモニーが私の頭に蘇った。

あの時、私は自分の人生など予想もしていなかった。

暴走で失ったことも多い。でも行き先のない人生はない、とも思う。「私」は私を導いている。私の人生がなんとなくそれを証明している？

ように見えてきた。

今でも「カワタカ生」は優秀だ。そんな先輩たちが私のように「暴走」しないために、私の人生は反面教師だ。私のようにならないように！

(平成27年12月9日実施)

講師・山田あつし記

現役生の部活の活躍

世界や全国で活躍する現役生

◆物理部

ロボカップジュニア

世界大会に出場

平成27年3月、ロボカップジュニアジャパン全国大会で準優勝し、同年7月に中国安徽省合肥で開催された世界大会に出場した。

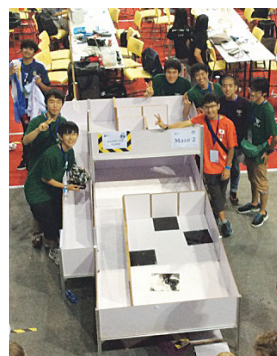


参加種目はレスキューメイズという被災者救助を模したコンテストであった。

1.5m四方の迷路3面に置かれた被災者の熱源を見つけ、本部にライトの明滅等で連絡、救急キットに見立てた1cm四方の物体を落とし、障害物や危険区域を避けながら、8人の被災者を見つけ8分以内に本部に戻るというものである。

競技は8回、4日間にわたって行われ、毎回迷路が組み替わり、日を追って難度が増

した。右より井上智裕、木村銀河、太田佳佑(リーダー)、鈴木絃太、根本峻、中島郁夢、鈴木晴万(全員2年)。



この中で、「スーパージム」競技というものがあり、参加国2チームで競技を行うもので、前日にクジで決定され、本校はアルゼンチンと組んだ。被災家屋に救助にいったロボットが閉じ込められ、それをもう一つのロボットが救助する内容である。10チーム中4位であった。

アルゼンチンチームと共にそして、総合結果は19カ国・地域中6位であった。

◆弓道部

第60回全国高等学校

総合体育大会

個人競技の部で準優勝

松本英悟君(3)

顧問 阿部 宏

県予選1000人から勝ち抜いた県代表2人の内の一人となった。全国大会の決勝は、一射ずつ引いて、外した者が敗退していく「射詰」という形式をとる。

96人が出場し、決勝に進んだのは10人であった。的が小さくなっていくなか、8本目の中で熊本県秀岳館高校の選手と松本君2人に絞られた。11本目で、先に引いた熊本の選手が的中し、松本君は惜しくも外し決着がついた。



松本君は高校に入ってから弓道を始めたもので、勉強と部活動の両立に取組みながら3年生の部員達を代表してくれたことを誇らしく思う。

◆新聞部

第39回全国高等学校総合

文化祭滋賀大会 文化連盟賞

◆将棋部

第28回全国高等学校

顧問 新津雅之(高29)

将棋竜王戦に出場

渡邊尚輝(3)

◆美術部

第39回全国高等学校総合

文化祭滋賀大会出展

小久保拓実君(3)



「finto」

◆演劇部

第10回春季全国高等学校

演劇研究大会出場

◆吹奏楽部

第56回埼玉県吹奏楽

コンクール地区大会 金賞

◆音楽部

第68回埼玉県合唱

コンクール地区大会 銀賞

◆古典ギター部

第26回JRAギター音楽祭

全国学校ギター合奏

コンクール 銀賞

◆SSH

日本生物学会オリンピック

2015 優良賞

物理チャレンジ2015

全国大会 銅賞

◆放送部

「地方の時代」映像祭

優秀賞

◆体操部

関東大会県2次予選団体

男子団体 10位

◆陸上競技部

8種競技 県10位

佐野文哉(3)

◆柔道部

関東大会県予選

ベスト16位

◆応援部

全国に名を轟かす応援部

は、本校運動部などの大会応援ばかりでなく、川越警察署の「110番イベント」、川越産業フェスタ、川越駅東口のアトレなどのイベントに参加し川越の活性化や啓発に貢献しています。



「110番イベント」にて

※(一)内は学年

スーパーサイエンス ハイスクール

SSH企画部 吉田 晃

川越高校のSSHは平成23年度から第二期目の指定を受け、平成27年度で第二期目最終年度を終えました。今年度は梶田隆章先生のノーベル賞という大ニュースがありましたが、梶田先生には本校SSH運営指導委員としてご指導いただいております。生徒研究発表会では開会式に梶田先生講話を聴く貴重な機会を得ました。また、本校SSHの卒業生にも、梶田先生に続く活躍を期待するところです。



世界大会 6位

「ロボカップジュニア」

物理部2年生7人が2015ロボカップジュニア世界大会に出場。初参加にして6位の快挙となりました。ロボカップは、人の操作によって動くロボットではなく、



自律型ロボットによる競技会です。本校チームはロボカップジュニアのレスキューメイズでの参加。迷路上に設置された熱源を被災者に見立て、8つの熱源を見つけて帰還するという種目です。

「世界大会2015」は中国・合肥で7月17日～23日の日程で行われ、参加した種目では19ヶ国19チームで争われました。また、1年生を含むチームが「2016ロボカップジュニア全国大会」に出場、準優勝となりました。

全国大会 銅賞

全国物理コンテスト「物理チャレンジ2015」で、3年生の小島一優君(生物部)が予選参加者1945人から全国大会1000人選ばれ、全国30位以内の銅賞を受賞しました。全国大会は八月につくばカピオにて3泊4日で行われました。5時間の理論問

題と5時間の実験コンテストで物理の能力を見極めるというハードなコンテストです。なお、小島君は「2015日本生物学オリンピック予選」においても上位5%となる優秀賞も獲得しています。



ハワイ島実習

8月後半、1年生8人の選抜チームによる5泊6日のハワイ島フィールドワーク・海外研修を実施しました。

宇宙、火山、植物をテーマに、それぞれ現地の研究者に指導していただきながら研修を行いました。

天文分野では、国立天文台すばる望遠鏡山麓施設で、生徒がすばる望遠鏡について調べた内容をもとにプレゼンテーションを行うワークショップと、標高4200メートルのマウナケア山4000メートル地点での天体観測を実施。火山、植物の分野では、ハワイ大学の火山学者と生物

学者による、キラウエア火山でそれぞれ一日かけてフィールドワークを行いました。これらはすべて英語によって解説や質疑応答を行います。理科、英語科、社会科、国語科による約140時間の事前学習を行い、全員がハワイで行う研究テーマを決めたうえで実習に臨みました。

帰国後は半年間テーマ研究を行い、科学展覧会等をはじめ、2月の本校SSH生徒研究発表会などで発表しています。また発表会では英語での発表を行っています。ハワイ島実習を経験した先輩に続き、今後の活躍が期待されます。



キラウエア火山にて

科学教育振興展覧会

10月に行われた埼玉県高等学校科学教育振興展覧会では物理の2作品「ダークマター分布を用いた銀河系生成シ

ミュレーション」「イオンクラフトの浮上力」と「建造物周辺における風速の変化の研究」が金賞を獲得、中央展に出品しました。このうち、「イオンクラフトの浮上力」が第40回全国高等学校総合文化祭に推薦され、参加することとなりました。全国総文祭は2016年7月30日から3日間の日程で、広島大学にて開催されます。

SSH生徒研究発表会

2016年2月15日、川越高校およびやまぶき会館にてSSH生徒研究発表会が行われました。SSHにかかわる多くの生徒が研究成果を発表しました。身近なものから相対性理論まで、44の多様なテーマの発表が行われました。やまぶき会館では7テーマの口頭発表が行われ、ハワイ島実習を行った生徒は英語での発表を行いました。生徒研究発表会はSSHの年間の総まとめですが、SSHを通して探究する力、問題解決能力のみならず、発表能力などを身につけ、発揮することができました。

毎年のSSH事業への同窓会の多大なるご支援に深く御礼申し上げます。今後ともよろしく願いたします。

事務局より

◆叙勲受章者

- 平成26年秋
瑞宝双光章
藍綬褒章
新井 望丕氏(高15)
更正保護功労 保護司
●平成27年
文化勲章
梶田 隆章氏(高29)
素粒子・宇宙線物理学
東京大学宇宙線研究所所長
●平成27年春
瑞宝中綬賞
青木 稔(高13)
海上保安功労
元 海上保安大学校長
瑞宝双光章
村松 一男氏(高14)
教育功労
元 公立中学校校長
旭日双光章
小杉 國武氏(高15)
保健衛生功労
埼玉県歯科医師会副会長
●平成27年秋
瑞宝双光章
牧野 茂氏(中43)
教育功労
元 公立中学校校長
旭日双光章
金子 憲二氏(高13)
中小企業振興功労

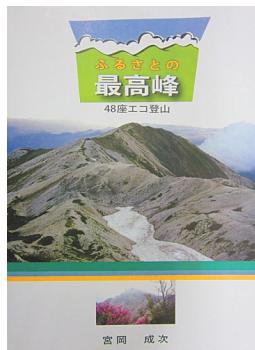
埼玉県商店振興組合連合会
副理事長
瑞宝双光章
工藤 憲一氏(高13)
外交領事事務功労
在ブリスベン日本総領事館
領事
瑞宝双光章
武藤 和親氏(高16)
教育功労
元 公立中学校校長
藍綬褒章
田嶋 秀浩氏(高12)
更正保護功労 保護司

◆図書等寄贈紹介

●岡部延夫氏(高2)
エッセイ「続・むすめふさほせ」



●宮岡成次氏(高6)
ふるさとの



●関口洋介氏(高11)
「秩父・奥武蔵と近隣の獅子舞」



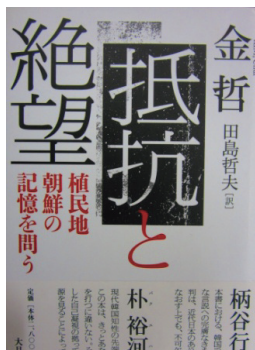
●笹崎能輝氏(高18)
絵本「とこトン村の花子」



●理崎 啓氏(清水健・高19)
「深海の灯 明石海人とハンセン病」



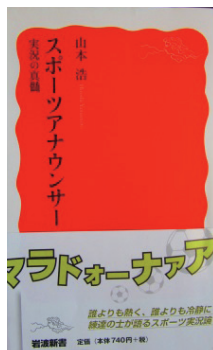
●田島哲夫氏(高19)
翻訳「抵抗と絶望」金哲著



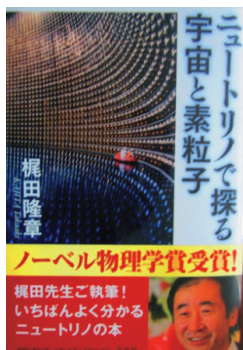
●栗原由郎氏(高21)
句集「ゆるりゆるり」



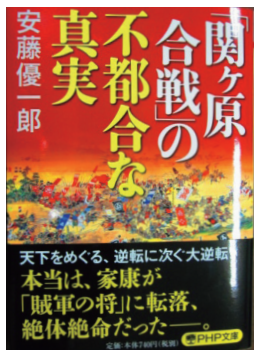
●山本 浩氏(高24)
「スポーツアナウンサー」



●梶田隆章氏(高29)
「ニュートリノで探る 宇宙と素粒子」



●安藤優一郎氏(高35)
「関ヶ原合戦の 不都合な真実」



●本橋信宏氏(高27)
迷宮の花街『渋谷円山町』

平成27年度分
終身会費納入の御礼

平成27年度の終身会費納入者は別添のとおり、388人の方々です。御礼申し上げます。

これにより、これまで合計6,575人になります。しかしながら、終身会費納入をお願いする対象者の30%弱です。

同窓会の運営は、平成23年度以降の卒業生に入会金と終身会費合わせ2万円と、それ以前の卒業生の終身会費5千円から成り立っています。

平成22年度以前の卒業生の納入をお願いする次第です。なお、今回は既に納入していただいている会員の皆様には、振込用紙は添付しておりません。

総会のご案内

日時 5月22日(日) AM9:30より受付

会則では5月の最終日曜日となっていますが、事情により前週に繰上げます。

本年は、梶田隆章氏のノーベル物理学賞受賞の栄誉を称えるため、本校内に顕彰碑を建立しその除幕式を行うため、総会の会場と懇親会会場を別にしております。

1 ノーベル物理学賞受賞 梶田隆章氏顕彰碑除幕式 …… AM10:00～AM10:20
会場 本校くすのき前

2 総会 …… AM10:30～AM11:00
会場 本校体育館アリーナ

3 記念講演 …… AM11:00～AM12:00
会場 本校体育館アリーナ

講師 梶田隆章氏(高29) 東京大学特別栄誉教授
東京大学宇宙線研究所長
平成27年ノーベル物理学賞受賞

演題 「ニュートリノ小さな質量の発見」

4 懇親会 …… PM12:30～PM14:30
会場 川越氷川会館(氷川神社内)
3階 鳳凰の間 電話 049(222) 8417

5 懇親会費 7000円

同窓会ホームページを活用して下さい

<http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

年一回の同窓会報では載せきれない同窓生活躍のニュースや学校行事など即時性をもつて掲載しています。

また、「お問い合わせ」「伝言板」では、住所変更の連絡、同期会の呼び掛けなどに活用できます。

ご意見、ご要望もお待ちしております。

これとは別にメールアドレスもあります。

alumni@hb.tpl.jp

同窓会事務局への連絡に便利です。

また、同窓会事務局への連絡は専用電話及びFAXにてお願いいたします。

電話&FAX

049(225)9071

振り込め詐欺の巧妙な手口にご用心を!

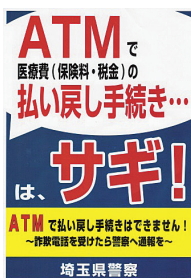
平成27年の川越警察署管内で、64件、2億3千万円に達し、例年、1億円台でしたが、増加傾向にあります。

本校関係者には接触することが多く、被害者になった方もいます。

最近、役人を騙った税金などの還付金詐欺、架空請求詐欺、高齢者施設の債権購入の誘いなどが増えています。

若い人には勝手に送りつける動画サイトの料金請求が増えています。

「自分だけは大丈夫」と思っている人ほど危ないです。



編集後記

川越高校始まって以来の快挙、梶田隆章氏(高29)がノーベル物理学賞を受賞された。誠にめでとうございました。その受賞を祝して、ストックホルムの受賞式会場での写真を表紙に掲載した。篤とご覧いただきたい。

今年度はノーベル賞に呼応するように、川高現役生の活躍もあった。梶田氏も所属した弓道部の松本英悟君(3年)が、インターハイ個人競技の部で準優勝を挙げたのである。

また、物理部はロボカップジュニアジャパンで準優勝を遂げ、世界大会に出場。見事6位になった。共に喜ぶたい。

今号の特集は、旧制川越中学時代を語る座談会を企画した。戦時中の授業の内容やゲートル巻いての通学、勤労動員で造兵廠に働き、爆発事故で死傷者まで出た悲しい思い出もある。お読みいただきたい。

左記編集委員に本紙の感想をお寄せください。(尾崎)

伊藤 豊(2) 尾崎勝美(11)
岡部恒雄(15) 仲田勝己(16)
圓山壽一(17) 栗原忠男(20)
栗原由郎(21) 一瀬 要(23)
大澤 誠(26) 水村英明(31)